

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（詳細版）

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象（悉皆調査）

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

【出題内容】 ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
【調査問題】 ・上記アとイを一体的に問う。 ・記述式の問題を一定割合で導入する。

- ② 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

- (4) 調査実施日 令和4年4月19日（火）

(5) 調査を実施した児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 73人
- ② 中学校調査 1校 52人

(6) 結果の公表と活用についての方針

- ① 小豆島町教育委員会では、調査結果を分析し、本町の児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげていく。調査により測定できるのは、学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないよう数値による結果の公表は行わず、全体的な傾向を文章でまとめ、公表する。
- ③ 小豆島町教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していく。

2 小豆島町の児童生徒の調査結果の概況

- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」
- ※ 全国（公立）の平均正答率と同じ場合・・・「同じ」

(1) 教科に関する調査の全体的な状況

- ① 小学校
 - 国語・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ。
 - 算数・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ。
 - 理科・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。

② 中学校

- 国語・・・全国（公立）の平均正答率と下回った。
- 数学・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。
- 理科・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。

(2) 学力・学習状況の傾向と今後の指導で大切にしたいこと

① 小学校

ア 国語（14問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
話すこと・聞くこと 全国（公立）を上回った	<ul style="list-style-type: none"> ■必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える。 □互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。
書くこと 全国（公立）とほぼ同じ	<ul style="list-style-type: none"> ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。 □文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。
読むこと 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> □登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考える。 ■登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。 □人物像や物語の全体像を具体的に想像する。 □表現の効果を考える。
言葉の特徴や使い方に関する事項 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■話し言葉と書き言葉との違いを理解する。 □言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。 ■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
我が国の言語文化に関する事項 全国（公立）を上回った	<ul style="list-style-type: none"> □漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。

※ 表中の□印は良好な内容を、■は課題と考えられる内容を示しています。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の考えや伝えたい内容を正しく聞き取るために、必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことが重要である。その際、話し合いのやりとり全体を踏まえた上で、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもてるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・文や文章を整えるために、文章全体の構成や、書き表し方に着目して推敲できるようにする。 ・自分や友達の文章を相互評価する際に、文章全体の構成や展開が明確かという視点で見直すことができるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・物語から伝わってきたことを自分の言葉でまとめる経験を低学年から継続して行わせて、内容や感想、考えたことを自分なりに表現できるようにする。 ・物語の全体像と想像した人物像を関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果を明らかにすることができるようにする。

言葉の特徴や使い方に関する事項	・6年生までに習った漢字についても、ドリル等を活用して繰り返し練習したり、読書活動を充実させたりして、日常生活の中で漢字に触れる機会を増やし、正しく書くことができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	・読みやすい文や文章を書くために、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことができるようにする。また、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこともできるようにする。

イ 算数（16問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
数と計算 全国（公立）を下回った	<input type="checkbox"/> 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 二つの数の最小公倍数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 示された場面を解釈し、除法で求めることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる。
図形 全国（公立）を上回った	<input type="checkbox"/> 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。 <input type="checkbox"/> 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 <input type="checkbox"/> 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 <input checked="" type="checkbox"/> 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。
変化と関係 全国（公立）を上回った	<input type="checkbox"/> 百分率で表された割合を分数で表すことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 百分率で表された割合と基準値から、比較量を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。 <input type="checkbox"/> 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる。
データの活用 全国（公立）とほぼ同じ	<input checked="" type="checkbox"/> 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。 <input type="checkbox"/> 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
数と計算	・日常生活における二つの数量が関わる事象において、目的に応じて、どちらか一方の数量を揃え、その数量に伴って変わるもう一方の数量の大きさを比較することができるようにする。
図形	・図形を構成する要素（意味や性質など）やそれらの関係に着目し、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断できるようにする。

変化と関係	・問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるようになることが大切であり、百分率で表された割合と基準量から、比較量を導き出すことができるようにする。
データの活用	・データの特徴を捉え考察したり、見いだしたことを表現したりすることができるようにするために、表の意味を理解し、表に表したり、表を読んだりすることができるようにする。

ウ 理科（17問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
「エネルギー」を柱とする領域 全国（公立）を上回った	<input type="checkbox"/> 日光は直進することを理解している。 <input type="checkbox"/> 問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。 <input type="checkbox"/> 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
「粒子」を柱とする領域 全国（公立）を下回った	<input type="checkbox"/> メスシリンダーという器具を理解している。 <input checked="" type="checkbox"/> メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。 <input type="checkbox"/> 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。
「生命」を柱とする領域 全国（公立）を下回った	<input type="checkbox"/> 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。 <input type="checkbox"/> 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 昆虫の体のつくりを理解している。 <input checked="" type="checkbox"/> 提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。
「地球」を柱とする領域 全国（公立）を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
「エネルギー」を柱とする領域	・予想したことが確かめられる方法になっているかを確認し、そうでない場合について、その要因を見だし、より妥当な解決の方法を検討して、改善できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	・器具や機器などの操作にどのような意味があるかを理解し、定性と定量といった視点で物事を捉え、目的に応じた実験を行い、知識・技能を高めながら問題を解決できるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験後に結論をだす時に、予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して、自分の考えを見直したりしながら、多面的に考察して問題解決できるようにする。 ・習得した知識を、次の学習や生活に生かしたり、科学的な言葉や概念を理解して説明したりすることができるようにする。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら調べ、差異点や共通点を基に、共通した特徴である成虫の頭、胸、腹といった部分に着目して、調べたことを他者に正確に説明できるようにする。 ・情報分析や解釈するために、複数の視点をもって比較し、差異点や共通点を見だし、それらを基に、分類できるようにする。 ・既に獲得している情報と新しく得た気付きから問題を見つけていくために、気付きを十分把握し、気付きの視点を明確にすることができるようにする。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に正対した結論を導き出すために、問題を把握することや既習の内容や生活経験と関係付けることができるようにする。 ・根拠のある予想や仮説を発想するだけでなく、自分の考えとは異なる他者の予想も捉え、予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して、解決の方法を発想し、観察、実験などを行えるようにする。 ・資料から結論を導き出すための特徴を見つけ、自分の考えをもち、それを表現し、他者と意見交換できるようにする。

① 中学校
ア 国語（14問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
話すこと・聞くこと 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。 □論理の展開などに注意して聞く。 ■自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。
書くこと 情報の扱い方に関する事項 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。
読むこと 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。 □場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。
言葉の特徴や使い方に関する事項 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。 ■文脈に即して漢字を正しく書く。 ■表現の技法について理解する。 □事象や行為、心情を表す語句について理解する。
我が国の言語文化に関する事項 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■行書の特徴を理解する。 □漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。 ■漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を引き付けるようにスピーチの内容を直したり、話し方について考えたりすることに加え、聞き手がどのように受け止めているかについて考えられるようにする。

書くこと 情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にするために、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認した上で、思いや考えを書くだけでなく、根拠を文章の中に記述することができるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 話の展開に沿って登場人物の行動や心情について捉えたり、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、登場人物の心情について考えたりすることができる。 文章中に用いられている表現の技法や登場人物の心情を表す語句について考えることができるようにする。
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 文末を直す意図について考えたり、文脈に即して漢字を正しく書いたりできるようにする。 文章中に用いられている表現の技法について理解できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 行書の特徴を踏まえた書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方などについて考えられるようにする。

イ 数学（14問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
数と式 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■自然数を素数の積で表すことができる。 ■簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ■問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ■目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ■結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。
図形 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> □反例の意味を理解している。 ■証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 ■筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
関数 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> ■一次関数の変化の割合の意味を理解している。 ■与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 □事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
データの活用 全国（公立）を下回った	<ul style="list-style-type: none"> □多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。 □データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ■箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> 事象を数や式を用いて考察する時、数を和や積に表すなどして数量の関係を捉え、事象の特徴を読み取って説明できるようにする。 立式した連立二元一次方程式について、二つの文字のうち一方の文字を消去し、一元一次方程式に帰着させて解くことができるようにする。 数に関する事象を考察する時、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明できるようにする。

図形	<ul style="list-style-type: none"> 命題や推測した事柄について考察する時、命題や事柄が常に成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できるようにする。 図形の性質を考察する時、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することができるようにする。
関数	<ul style="list-style-type: none"> 実生活の場面において、事象を理想化・単純化してその特徴を的確に捉え事象を数学的に解釈することができるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> データやグラフなどを適切に読み取り、データの傾向を捉え、批判的に考察して判断する時に、判断理由を数学的に説明できるようにする。

ウ 理科（21問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
<p>「エネルギー」を柱とする領域</p> <p>全国（公立）を下回った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。 □モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。 □化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。 ■力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。 □課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる。 ■考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる。
<p>「粒子」を柱とする領域</p> <p>全国（公立）を下回った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。 ■水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。 □化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。 ■液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。 □実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる。
<p>「生命」を柱とする領域</p> <p>全国（公立）を下回った</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる。 ■複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。 □アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。 ■予想や仮説と異なる結果が出る場面について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程

	<p>の見通しをもつことができるかどうかをみる。</p> <p>□未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる。</p>
<p>「地球」を柱とする領域</p> <p>全国（公立）を下回った</p>	<p>■観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。</p> <p>□継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。</p> <p>□飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。</p> <p>■玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。</p> <p>■過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる。</p> <p>■地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる。</p>

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を計画する際に、事象の観察を通して抽出した要因を整理して、適切に条件を制御できるようにする。 ・身近な事象を取り上げた学習場面を設定することを通して、化学変化に関する知識及び技能と、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能とを関連付けて、科学的に探究できるようにする。 ・見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定することで科学的に探究できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で見られる事象を主体的に探究するために、ポスターなどにまとめ、発表や対話を通して考察が妥当かどうかを検討し、改善できるようにする。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の体のつくりと働き共通点と相違点に着目し、その特徴を生活場所や骨格のつくりなどと関連付けて分析して解釈する学習活動を通して、科学的な探求を主体的に行うことができるようにする。 ・探求の各過程において見通しに沿って進んでいるか振り返ったり、観察、実験を計画する時に、予想や仮説と異なる結果が出た場合について考えたりして、課題に正対した考察を行うことができるようにする。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・観測データや空の様子を撮影した画像をネットワーク上に蓄積、共有して、考察することを通して、継続的に気象観測を行い、時間的・空間的な見方を働かせながら、気象要素と天気の変化を関連付けて捉えることができるようにする。 ・化石や露頭の観察結果から推論の妥当性を検討したり、複数の露頭の観察から地層の広がり方を推論したりして、規則性や関係性を見いだして事象を推論できるようにする。

(3) 無回答率

状況

小学校では国語の3問、理科の3問で、無回答率が全国（公立）を下回った（無回答が少ない）。
 中学校では無回答率が全国（公立）を上回る問題数が多かった（無回答が多い）。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・長文の問題が多くなっているため、問題を読み解く力が必要になる。国語科において読む力を身に付けるとともに、各教科においても長文の問題を解く機会を増やしていく。
- ・授業の中で解けない問題についてもいろいろな方法を試しながら粘り強く挑戦する場面を設ける。ただし、解答に時間がかかり過ぎていないか時間配分についても留意し、決められた時間内で解答していく経験も積んでいく。
- ・記述式問題において、無回答率が高くなっている。授業において問題解決に必要な情報を整理・共有する場面を設定したり、みんなで説明を練り上げていく活動を取り入れたりするなど、自分の考えを整理し、根拠を示しながら筋道を立てて説明することができるよう指導を工夫する。

(4) 質問紙調査 ※小豆島町の課題としている項目

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために学級閉鎖になったり、行事の縮小・延期等通常の学校生活を送れなくなったりしたが、小豆島町の課題項目について、全国（公立）平均より上回る項目が増えている。少しずつ通常の学校生活が戻りつつある中で、「今後の指導で大切にしたいこと」を踏まえて実践し、改善に向けて尽力していくことが必要である。

① 児童生徒質問紙調査（肯定的回答の割合）

ア 自尊意識について

状況

<自尊意識にかかわる質問項目についての肯定的回答>

- ・【質問7】自分には、よいところがあると思いますか。
全国（公立）平均を小学校、中学校ともに上回った。
- ・【質問8】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
全国（公立）平均を小学校は上回り・中学校は下回った。
- ・【質問9】将来の夢や目標を持っていますか。
全国（公立）平均を小学校は上回り・中学校は下回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒が自己発揮できる場を多様に設定するとともに、教師は個人の伸びを見逃さずに認め、プラスの声かけをしていくよう心がけていく。
- ・互いのよさを認め、励まし合える仲間づくりを行っていく。

イ 規範意識等について

状況

<規範意識にかかわる質問項目についての肯定的回答>

- ・【質問12】人が困っているときは、進んで助けていますか。
全国（公立）平均を小学校はほぼ同じであり、中学校では下回った。
- ・【質問13】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問15】人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
全国（公立）平均と小学校は上回り、中学校はほぼ同じであった。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・生活科や総合的な学習等で、人とのかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れる。
- ・いじめを仕方がないとする意見について、その背景をみんなで考え、どのような理由があるとういじめは許されないものであることが理解できるようにする。
- ・自己決定の場を大切にし、児童会や生徒会、学級会などにおいて、自分たちで話し合い、決定していく経験を積む。

ウ コミュニケーション能力について

状況

<コミュニケーション能力にかかわる質問項目についての肯定的な回答>

- ・【質問 17】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
全国（公立）平均を小学校は**ほぼ同じ**、中学校では**下回った**。
- ・【質問 18】友達と協力するのは楽しいと思いますか。
全国（公立）平均と小学校では**上回り**、中学校では**下回った**。
- ・【質問 38】5年生（1・2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
全国（公立）平均を小学校では**上回り**、中学校では**下回った**。
- ・【質問 43】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
全国（公立）平均を小学校では**上回り**、中学校は**ほぼ同じ**だった。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒による主体的な学習を目指し、自分の考えを表現する場、ペア・グループによる交流の場を十分に確保し、自分の考えを広げたり深めたりする経験を積むことによって、交流のよさを感じられるようにする。
- ・様々な教科の中で言語活動を充実させ、対話を通じて合意形成・課題解決する力を身に付ける。
- ・安心して自分の考えを伝え合うことができる学級づくりを行う。

エ 学習に関する関心・意欲について

状況

<学習の関心・意欲にかかわる質問項目についての肯定的な回答>

- ・【質問 49】国語の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに**下回った**。
- ・【質問 50】国語の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに**下回った**。
- ・【質問 51】国語の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに**下回った**。
- ・【質問 52】国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では**上回り**、中学校は**下回った**。
- ・【質問 53】算数・数学の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校は**ほぼ同じ**、中学校では**下回った**。

- ・【質問 54】算数・数学の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校は下回った。
- ・【質問 55】算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問 55】算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問 61】理科の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問 62】理科の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問 63】理科の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を小学校ではほぼ同じ、中学校では下回った。
- ・【質問 65】理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・教科への興味・関心を高めるために、自分で考え取り組むことができる学習者主体の授業づくりを行っていく。
- ・考えを深めたり広げたりするために、児童生徒の発言や活動の時間を十分に確保する。話し合う活動においては、話し合いの目的を明確にし、適切なタイミングや相手を設定する。
- ・授業においては課題解決の時間を確保し、「できる」ことによって達成感や満足感を味わえるようにする。
- ・自分の学びが自覚できるように、振り返りの場を設定し、児童生徒が自分の伸びに気づいたり、次時の見通しをもって学習に取り組んだりすることができるようにする。
- ・興味・関心の高いICT機器を効果的に活用していく。
- ・「何のために学ぶのか」「現在の学びが将来どのように生きるのか」をしっかりと伝えていく。

オ 家庭における学習習慣等について

状況

<家庭における学習習慣等にかかわる質問項目についての肯定的な回答>

- ・【質問 20】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
全国（公立）平均を小学校ではほぼ同じ、中学校では下回った。
- ・【質問 21】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。
2時間以上の学習が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 22】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。
2時間以上の学習が、全国（公立）平均を小学校は上回り、中学校は下回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・授業で学習したことを活用する課題を出したり、予習で取り組んだことが生きる授業を設定したりするなど、家庭学習と学校での学習内容を関連付けていく。
- ・キャリア教育を充実させ、将来に向けて興味・関心をもった事柄や、自分の目標に向かって主体的に学習する習慣を身に付ける。
- ・日々の読書や運動の時間も少ない傾向にあるので、家庭での過ごし方について家庭で話し合う機会がもてるよう啓発する。
- ・スマートフォンやゲーム等の使用時間がとても長いので、各家庭でスマートフォンやゲーム等の使い方のルールを作り、見守っていくよう啓発する。

カ 情報教育について

状況

<情報教育にかかわる質問項目についての肯定的な回答>

- ・【質問 32】 5年生（1・2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
週3回以上の回数が、全国（公立）平均を小学校、中学校ともに上回った。
- ・【質問 33】 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。
週3回以上の回数が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 34】 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。
週3回以上の回数が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 35】 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。
週3回以上の回数が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 36】 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校、中学校で上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・各学校で情報教育を積極的に進め、児童生徒のICT機器の活用技能は飛躍的に伸びている。今後、ICT機器を用いて、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習が展開できるよう工夫していく。
- ・授業の中で、ICT機器をより効果的に活用し、学力向上へとつなげていくとともに、自主的に学習できるような環境（AIドリルの導入、家庭への持ち帰り）づくりを進めていく。
- ・情報モラルについても十分に学習を行い、ネットトラブルやゲーム依存に陥らないようICT機器の適切な利用の仕方について学べる機会を設けていく。

② 学校質問紙調査

ア 校内研修について

状況

<授業改善、授業力向上のための校内研修を行った割合>

- ・【質問 18】 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

- ・【質問 21】 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・今後も、新学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に向け、令和 2 年度末より導入されたタブレットの効果的な活用も含めて研修を充実させ、実践していく。
- ・課題となっている「学習意欲」の向上を踏まえて授業改善を行っていく。

イ 生徒指導等について

状況

＜生徒指導等にかかわる質問項目についての肯定的な回答（調査対象児童生徒に対して）＞

- ・【質問 7】 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 8】 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 9】 前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 10】 前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・今後も、児童生徒とのふれあいを大切に、表情や行動など様々な角度から思いや考えをくみ取り、一人一人を大切に生徒指導を行っていく。
- ・教育相談を定期的に行っていくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等、校内の教育相談体制を整えていく。
- ・仲間づくりを大切に、安心して自分の気持ちを伝えることができる支持的風土を培っていく。
- ・集団で生活していく時のルールの大切さについて気づくことができるようにするとともに、児童会・生徒会、学級会などの場を通して、ルールについて児童生徒が主体的に考えていく場を設定する。

ウ 特別支援教育について

状況

＜特別支援教育にかかわる質問項目についての肯定的な回答（調査対象児童生徒に対して）＞

- ・【質問小 68、中 66】 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・学校生活全体を通して、児童生徒の特性に応じた必要な合理的配慮が行われるよう教職員が情報共有するとともに、体制づくりを行っていく。

- ・個別の教育支援計画を有効に活用し、保護者の願い、本人の願いをもとに、将来を踏まえた教育活動が行えるようにする。

※ 令和4年度全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。